

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 PHOUYYAVONG Khamphou

論 文 題 目 Swidden-based Smallholder Livelihoods under
Marketization in Northern Laos

(ラオス北部における市場化の下での焼畑を基盤とした小農生業)

論文審査担当者

主 査 名古屋大学大学院環境学研究科 教授 横山 智

副 査 名古屋大学大学院環境学研究科 教授 岡本耕平

副 査 名古屋大学大学院環境学研究科 准教授 伊賀聖屋

副 査 名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院
特任准教授 富田晋介

論文審査の結果の要旨

焼畑は世界的には衰退傾向にあるが、ラオスでは依然として農山村地域の小農にとって重要な生業として営まれている。しかし 1990 年代以降、焼畑禁止を掲げる政府の強い圧力によって、土地森林分配や村落移転などの事業が実施され、農山村地域の土地利用が規制されている。また、2000 年以降は市場経済化が進み、多くの換金作物が導入され、農民の生業が大きく変化している。本研究の目的は、利用可能な土地の制約と市場化が進展するラオス北部農村地域において、焼畑を基盤とする小農の生業における焼畑の役割を明らかにすることである。調査対象地域は、焼畑と牛の放牧を組み合わせた生業を営むラオス北部ルアンパバーン県ポンサイ郡ブンパオ村であり、ラーオ族、モン族、カム族の 3 民族が混住する村落である。

本論文は、5 章で構成されている。第 1 章では、世界の焼畑研究、作物-家畜システム、そして小農の労働配分に関するこれまでの研究動向をレビューした。第 2 章では、焼畑を削減させるラオス政府の政策を整理した上で研究対象地域の歴史と生業の特徴を説明し、研究対象地域の位置づけを明確にした。続く第 3 章では、農業を主業とする 92 世帯の詳細な農業と家畜飼育のデータを基に牛飼育システムの変化を論じた。牛飼育システムは、焼畑休閑地での放牧から、牧草を輪作して放牧する方法が加わり、さらに舎飼い牧草を与える肥育が見られるようになった。土地の制約と市場経済化の圧力の下で、放牧地であった焼畑休閑地が減少することによって作物-家畜システムを変化させ、土地の制約に対処していることを明らかにした。第 4 章では、53 世帯 133 人を対象に各生業活動に費やす労働時間データを取得し、民族（モン族とカム族）、年齢コーホート、性差による年間を通じた労働配分の特徴を分析した。その結果、土地の制約によって農外活動に転じるカム族と換金作物栽培や牛飼育に特化するモン族の特徴を描き出すことに成功した。さらに焼畑を実施する 5~8 月の農繁期に様々な生業活動に従事する個人の労働配分の実態を解明し、焼畑を中心とした生業の柔軟性を論じた。そして第 5 章では、小農がいくつかの経済活動を組み合わせながら生計を営むような主たる産業がないラオス北部農村地域において、焼畑は労働配分の柔軟性が高く、他の生業と組み合わせやすいことから、主食の米を得るだけでなく、収入源を提供するためにも重要な役割を果たしていることを論じた。

本論文は、フィールドワークによる一次データを用いた統計分析を通して、土地の制約と市場化が進展する中で、焼畑は生業の多角化に柔軟に対応できることを提示したものである。本論文の成果は、地理学、農学、ならびに人類生態学などの複数の関連分野に大きな学術的貢献を果たしたといえる。また、本論文の成果はラオスの土地・農林業政策研究の分野にとっても貴重な成果をもたらし、今後の研究の展開にも期待が持てる。よって、本論文の提出者、PHOUYYAVONG Khamphou 氏は、博士（地理学）の学位を授与するにふさわしいと判断した。